

栄八通信

ハートコミュニケーション

第5号



武雄市議会議員
発行者 **宮本 栄八**
武雄町野間 TEL・FAX23-0750
発行部数 11,200部

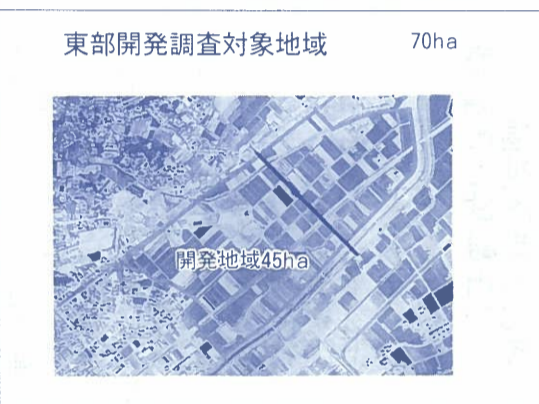
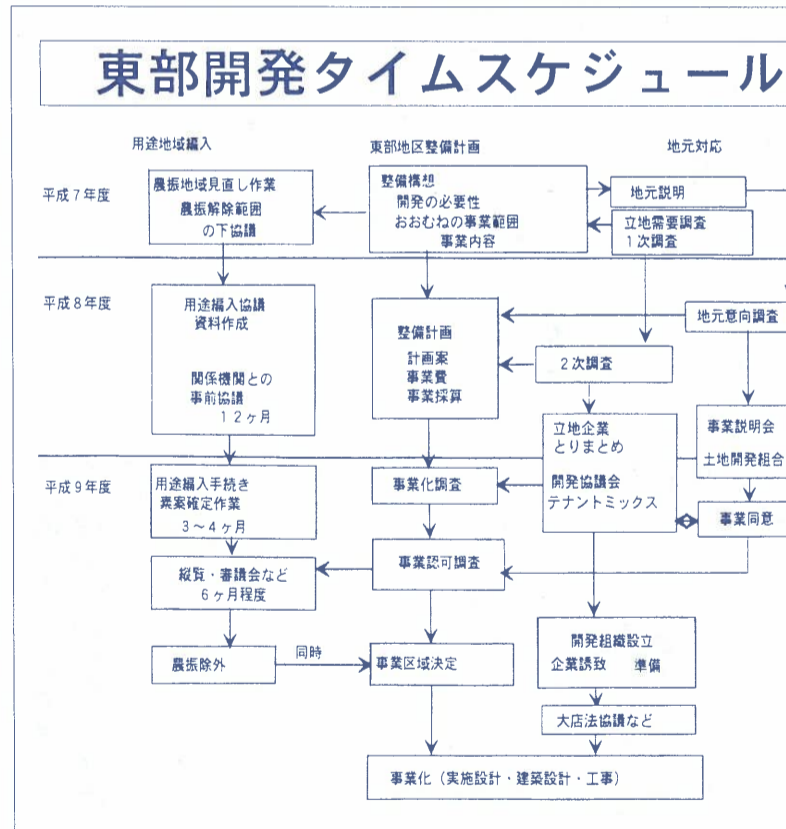
やっぱり納得できん 武雄市のまちづくり 市長の商業政策！ 疑問ばかりでビジョン無し。 言いわけばかりで決断無し。

これまでの商業政策 「市長は商業問題に適切な把握と決断を！」

今、小学生の会話にも、商店の閉店や買収の話が出るほど、武雄市の商業問題は、存亡の岐路に立っています。

市のマスタープランには、北部は、文化性や専門性を生かし、それに對し、日祐を核とした南部はモノの提供を中心として、それらを回遊させることで、市全体の商業発展を目ざしていたはずである。商業者も、それを官民一体の共通認識をもって、市のかかげる北部と南部の交通の風通しを良くする為の鉄道高架事業と区画整理事業に合わせ、商店街の再開発を夢にえがいて、建築等の制限を受けながらも、じっと耐えながらふんばって来たわけであるが、また十年たっても、区画整理の具体的な概要さえ、説明されていない！

市長は、私の一般質問で、東部の開発問題についての答弁で、「東部の件は、ふってわいたような話であり、私は東部を、ショッピングセンターなどとパッケージするようなものを、作るなど考えてない。」と六月十九日に答え、翌日の二十日の議会冒頭に、めずらしくメモを見ながら、訂正の発言、地元主導型、複合商業施設を作る云々と百八十度ちがう答を言われた、訂正は訂正で良いが、3月に出来た、東部開発の計画の内容を十分に把握されていない！



東部開発 超広域商業地区に！

H九年、農振除外

東部開発の内容は、結論をまず、先に言えば、平成九年度に、東部地区の水田を、農振地域から除外して、超広域商業核と地元商業者で、複合商業施設を作るというものだ！

東部開発については、平成元年のマスタープランで、高速のインターに近いことから、卸売・運輸・倉庫・情報サービス等の対事業所サービス業の集積を図る。となっていたが、農振除外が農水大臣の認可まで必要など、開発は、二十年は無理との認識だった。

しかし、政府の米の減反政策や規制緩和等から、農用地転用が柔軟になって来た。そこで、市は、東部開発懇話会を開き、一千万円でコンサルタントに計画書を作らせた。しかし、市外の業者で、水害問題への認識があまく、さらに

五百万円追加して、水問題を計画させた。この水問題については、計画地区の半分の四十五haを開発対象地区にすることや、遊水に公園等やグラウンドや大型駐車場を作ること、クリアすると言う。そこで、どんな業種が、東部進出に意欲を持っているかを関西以西の事業所や学校等に調査したところ、大型ショッピングセンターと各種専門学校からの問い合わせが多く、それらの業種を中心に開発する方針だ。しかも、バブル崩壊の時代、進出意欲のある企業、学校が気が変わらないうちに誘引したいとのこと。また具体的開発計画がないと、農振除外ができないので早期の事業計画決定が必要。しかし、イズミとの競合関係については、全く検討がないし、大問題なのに市民論議もない！

結局、そう市外からの流入は、オープン時以外は見込めない。そこで、イズミの売場面積について、半分の一万平米以下にし、東部はそれより大型にしても四十億余を地元商業者の地域再開発に止めた方がよい。

私の主張したいこと

地元商業関連の小売業の市内総売り上げが、約二百億円だ！イズミの出店計画によれば、売場面積が、一万七千平米予定。一万平米で四十五億から五十億売上げるのが最近の状況。ならば、九十億は売り上げる。また、東部の方は、超広域商業を目指し、地元主導型複合施設であるから、文化ゾーンに九州制覇の為に来た者に負けるわけにはいかないので、地域一番店を目ざし、イズミより大型の二万平米を作らざるをえない！すると、売上げは百億円になる。そこで、二つを合わせれば、百九十億となり、ほぼ、市内小売り総売り上げに相当する。単純に考えれば、地元小売店は、全滅する計算になるが、他地域から集客も見込めると思う。しかし、若者衣料は、博多に依存するし、一方食料品については、各地で地元ニーズぐらいい店は、まちづくりの観点から自治体が三セクで作るだろう。



議員 26 名から 24 名に

採決直前に反対から賛成に

昨年、現在の二十六名を二十二名に四人削減する案が、森・西村・吉川・早田氏らのベテラン議員を中心に、区長会からの削減の動きを受けて、提案され、議会内で定数問題調査特別委員会を作って、論議されていた。結論が出ず継続審議が続いていたが、今議会で結論を出すことを委員会が決断。

結論が長びいたのは、四人削減には、議員の同意が得にくかったと、想像する。しかし、一旦議会に提出された以上、否決すれば市民の感情を害する等の思惑もあつてか？、二人削減で決着させようとの雰囲気。一方、特別委員会も、四委員会を六名で四×六で二十四名が適当であると偶然の一致か？、二名減の定数二十四の、議員削減の修正案を作り今議会に提出。

ところで、私の考えは、栄八通信第一号に記した様に、地方分権時代、行政に対し、更に市民の声の拡大が必要であり、市議以外の

市民の意志を反映する別ルートの確保ができれば、反対の立場。また、行政改革では、基本計画や実施計画や財政計画を厳しく言うのに、自らの議会改革には、二名減で幕引きでは、おかし！

だから、削減の人数は、どうでもいいが、削減と議会改革をセットでやる事を主張した。採決の直前の休会中、牟田君と大激論「私が、議会改革を言うが、自身の為の言いわけだ！」削減は次の選挙からだから、あと一年改革計画を作って良いのでは？「その時また、理由をつけて反対では！」「やる気なら、後で改革はできる」など大声で交論した。そこで、私が、削減が次選挙に間に合わなくなる様な反対をした時は、「今、議員の辞表をあげるから、それを出してよか」と言うのと、納得してくれ

てよか」と言うのと、納得してくれ議運で、牟田君が議会改革を言ってくれた。そこで、議会改革が約束されたので、逆に削減の賛成討論に立って、その理由の議会改革の実施に念を押しした。

配の議員も多くいるし、福祉に詳しい議員もいるので、その人たちに、老人福祉問題は、おまかせすると言う考えがありました。

その深層心理の中には、父母の介護から亡くなった時の事を、思い出したくないと言う気があったかもしれない。しかし、以前、住んでいた近所の、父母と同年代の老人が入院されたり、リハビリされているのを見る時、介護を経験した者の責務として、何か少しでもやらんといかんと最近思い始め

私の老人福祉への提言

老人保健施設の早期設置

宮本試案の基本スキームは、第一に、「武雄市老人保健福祉計画」を早急に見直し、施設・在宅福祉を具体化する。①特養の十床増床の実現。②福祉センター建設。③老人保健施設の建設。が必要だ。建設にあたっては、「特養」・「保健センター」・「老健」の三施設を、中学校区に分散し、各に在宅サービス機能を持たせ、きめ細かい地域密着型の老人福祉を実現すべきと思う。

今後のタイムスケジュールと、実施順序は、まず、川登中地区は「御船荘」の一部増床を実現する。武雄中地区は、「日輪荘」の位置づけを明確化する。当面、改築し手がつけられないので、将来、身障者施設やシルバー人材センターを包含した福祉センターを作るかの検討に入る。

そして私が、早急にやるべきと思うのは、市内で一番高齢化が進む、北中地区に、一〇〇床の老健施設を誘致し、そこに在宅サービスを付加し、ここ五〜六年間は、「御船荘」と「老健」の二施設に付加されている、在宅介護サービスで、武雄を二分して福祉の充実をはかれば、デイサービスやショートステイ等も二倍のサービスが受けられ、たとえば、週二回の入浴サービスも、一日おきの入浴も可能になるのでは？

とも角、まだ、杵藤地区の目標六〇〇床の内、一〇〇床しか充足していない、老健施設を早急に誘引しなければ、医療のベッド数の置しなれば、特養のように徐々に制限が加えられるかもしれない。実際の話、特養は、鹿島は、武雄の二倍の百床認可されているが、理由は早期整備の既得権と言う。市長の陣頭指揮で老健施設の早期誘致をすべきだ。

特集

老人福祉問題に具体策なし

私と老人福祉問題

今、国では、高齢者社会の到来に直面し、公的介護保険の導入が計画されています。それでは、四十才以上が負担した保険料で、運営するという話ですが、私も、もうその四十才であります。

また、数年前に、父母の介護も少し経験し、その苦勞も多少は知っているつもりです。しかし、長男の嫁の苦勞にはおよびません。

一方、私の心の中に、私より年

登り窯など派手な事業も良からう。しかし、本来行政にしかできない事業を優先に

鹿島市と武雄市の老人福祉施策の比較

まず、武雄市においては、平成六年度に国の指導に基づいて、「武雄市老人保健福祉計画」を策定し、その実現に向けて努力されていると思う。しかしながら、そこに、かかげられている具体的な目標は、ほとんどが進展していません。

人口の類似する鹿島市の状況を

配の議員も多くいるし、福祉に詳しい議員もいるので、その人たちに、老人福祉問題は、おまかせすると言う考えがありました。

その深層心理の中には、父母の介護から亡くなった時の事を、思い出したくないと言う気があったかもしれない。しかし、以前、住んでいた近所の、父母と同年代の老人が入院されたり、リハビリされているのを見る時、介護を経験した者の責務として、何か少しでもやらんといかんと最近思い始め

	鹿島市	武雄市
現 状	(鹿島市保健福祉計画) ●特別養護老人ホーム 100床 ↓ デイサービス・ショートステイ ホームヘルプ・介護支援センター <input type="checkbox"/> シルバー人材センター設立 <input type="checkbox"/> 24時間ホームヘルプサービス <input type="checkbox"/> 老人給食宅配事業 <input type="checkbox"/> 老人向け公共住宅整備	(武雄市保健福祉計画) ●特別養護老人ホーム 50床 ↓ デイサービス・ショートステイ ホームヘルプ・介護支援センター
	今後の予定	特別養護老人ホームを 10床 増床 ●(図書館併設)老人福祉センター建設 ↓ デイサービス・ショートステイ ホームヘルプ・介護支援センター ●老人保健施設 80床 ↓ (痴呆床の設置)

ここで私の提言を
実行すべき

6月定例議会 6/5〜6/25

私の一般質問

① 武雄の将来計画の立案について

企画情報課は

これでよいのか？

今、武雄市は高架区画整理を初め、東部開発、下水道・国立武雄病院・西部広域水道・リサイクルセンター・し尿処理場建設・図書館歴史資料館建設など多くの近未来の大型事業をかかえています。最近、多くの議員が心配して、財政計画やシュミレーション等を出すように要求しております。

そこで財政課長が時々財政の厳しい状況を率直に説明されるが、結局百二十億円の年間予算の内、約一割の十二億円が投資的に使用できる金で、しかも、その中から学校等の施設維持に四億円必要で、新規大型事業の為に約八億円残るのみ。それなら、西部広域水道の受水費が四億五千万円と工業用水の赤字五千万円は毎年必要だし、高架区画事業は二十年間も三億円の支出が必要である。

その三つですでに八億円かかるのだから、単純計算でも財政はパンクすることは明白だ。だから、私は、武雄市の将来計画は、財政の問題でなく、市民にとっての事業が望まれているのか？優先順位はどれが良いのか？事業効果は本当にあるのか？など事業の取捨選択こそが最大の問題とすむべきだ。やはり、企画情報課が市民の声を希望を聞き、取捨選択し、A・B・Cぐらいの案を出しそれに、財政的に可能かの順で話を進めていかねばならない。しかし、企画情報課はイベントや補助事業に追われ

て、職員が出払っていることも多い。そこで私が論点としたのは、本来の武雄市の将来や運命を決めるべく、存在しているこの課が、もっと立案に専念できるように形にし、市長の判断材量をきちっと作って、市長の決断をおおぐようにすべきだ！

【回答主旨】

市長は「行革や全体の機構改革を担当している当課も同じ行革の中で考えて行くことと考える。」として、今の企画のあり方には、明快な言及はなし。意見は今後の参考にするとの答え。

② 行政改革について ① 補助金の見直し

市長の方針なくては不可能だ！

市長は公共料金の水道会計さえ独立採算性を強調されます。そのような中、平成六年の決算委員会でも監査委員から補助金等の見直しが行革以前にも指摘を受けていたが、具体的な方針と手順が見えてこない。自らの課に関する補助金を自ら切るのには難しいと思う。そこで市長が今年度、官々接待分の食料費をトップ方針で全廃した時のように、一定の補助金削減の方針の指示がなければ、絶対に補助金の見直しはできないと思うがどうか？

【回答主旨】

食料費とは異なる。各課が独自に検討する中で見直すべき。解説Ⅱ市各課は、多く団体の事務局を請け負い、また、その会の事業計画や補助金を含めた収支予算案を作っている。結局、請求するのも、認めるのも同じ課が担当であり、私が現状の形で見直しは難

しいと確信する理由である。

② 審議会等の見直し

本気で、市民の意見を聞く会議になつていない！

市の行政運営や事業実施には、市民の声を直接公聴する手段として、たとえば、武雄病院や都市計画は審議会。東部開発や行政改革は懇話会。登り窯は検討委員会。また各課の計画作りは、策定委員会が設けられて、市民ニーズを集約した形で、市長に対して答申がなされる。市長も市議会もその答申を尊重して、実現に努力していくこととなる。

しかし、ほとんど全てが、事務局を市役所の担当課が務め、コンサルタントの作った冊子を説明し、他事業との関係や予算配分も十分に論議されずに、形式的な承認や行政案の追認になっている。

また、会議の委員も区長会長・婦人会長・商工会議所会頭・農協組合長・観光協会会長・青年会議所理事長など、の同一メンバーが多。多くの委員会の構成員である。しかも、個人としてか、団体の長としての発言ととらえているのか？

市の予算は、三月議会で、国↓県↓の予算確定すなわち交付金や補助金の内示を受けて作成される。しかし、国・県も三月以前にすべての事業内容が固まらないものも多く、四月以降の補正で計上されるものもある。ちなみに、七年度の当初予算は、一一〇億円でしたが、年度末は二八億で、二八億の補正増。この様に年間四回の議会ごとに補正。ところで、八年度の当初予算は、

会議が市民に公開されているのか否か？答申の重大性のわりには不明確で、責任の所存もない。

しかし、市民ニーズを反映する街づくりには、公聴機関の拡大と内容の充実をさけて通れない。前回の議会で、審議会等の見直しを総務課長は明言したが、具体的に見えてこない？

【答弁主旨】

各課が、担当している審議会等を各課で見直している。解説Ⅱそこで、見直しを行っている課は、まだなかった。市長が本気で民意を聞く気があれば即実行を。

③ 行革の進行管理の問題

外部から進行管理者を入れる！

この行革を、市民の希望となすも失望となすも、進行や実施にかかっていきます。私は、武雄市の行革の実施計画の内容は他市に比較して、大変具体的に良くできてい

ると思っています。その要因を考えると、行革の大綱に起因しているかと、この大綱は行革の懇話会すなわち市民各層の意見をまとめた

一二億で、七年度よりも、一二億の増でした。その原因を簡単に言えば、市税が三億五千万円・国支出金や交付金が二億八千万円・市債(借金)四億六千万円で、まあ、市税増と借金増の結果。年度予算の解説はこの程度にとどめて、今六月補正予算についてお知らせします。【支出の主な事業は次のとおり】①世界森博に、小学四年〜中学生を観覧させるバス代の半額負担

市の年間予算額と六月補正予算と事業

ものです。だから、一步ふみこんだ内容になっていきます。そこで、この行革の進行管理を現在、各課の課長を中心とした行革推進本部で行っているが、行革やるのも、管理するのも同じ課長では本場の進行チェックはできない。やはり、市民等の外部の人を入れたチェック体制が必要だ！

【回答主旨】

(あっさり)、外部から入れることは考えていない。

商業問題 老人福祉問題は特集コーナーへ

他議員の質問

- Q 消防団に対する市からの援助が、水害で一日出勤しても、五百円では少なすぎる！
- A 消防団は、最も義勇心をもつボランティアと思っている。
- 他町村との差は今後検討。
- Q 障害をもつ小学生については、武雄小に通級教室があるが、中学にもぜひ作ってほしい！
- A 福岡県に一枚だけあるが、まだ
- ②世界森博に、一人暮らし老人・重度障害者の観覧バス代全額負担
- ③世界森博のパレード参加に伴う武中バスバンド備品購入費
- ④保育所地域活動事業(母代交流・郷土文化交流等)一園五〇万円
- ⑤ごみ減量化への取り組み(標語・絵画募集・資源回収団体補助増・ゴミ減量等推進協議会の設置)
- ⑥保養村整備で、宇宙科学館の裏に作る森林公園造成の測量設計
- ⑦保養村の白鳥ポイント購入二台分
- ⑧学校給食の調理業務の民間委託(武雄小・御船が丘小) 九月〜
- ⑨文化会館庭園の黒門道垣(竹)の整備(片側六五メートル)
- ⑩武雄流鏑馬八一〇年祭に伴う、

- ⑪ 県内にはない。今後県とも相談してゆく。
- Q 観光のPRはFAXで行なうと言うことだったが、そのFAX番号をどのように知らせしているのか？
- A まだ、具体的に知らせていないが、今後パンフレット等に記入してゆく。
- Q 大分県では、プラスチック系ゴミの固型燃料化を実施。当市でも、取り組んでみては！
- A 今度、設置するゴミ減量等推進委員会の中で検討する。
- Q 杵藤クリーンセンターの寿命！
- A 当初は、平成十四年度を設定。しかし、平成二十年まで可能。
- Q 市民ホールの窓口サービスが向上してない！
- A 住民票など種類別に受け付けを別けて、迅速化に努力中。
- Q 駅北口の駐輪場を移転しては！
- A J.Rの貨物跡の利用を検討中。
- Q 御船小の給食室のため枡が室内で保健所の指導を受けた！
- A 夏休み中に改善する。
- Q 御船小オープンプン教室の為、授業の音が聞き取りにくいのでカーテン等の間仕切りが必要！
- A 学習指導面も含めて検討する。
- ⑪ 消防団員退職報償金(五十一名分)
- ⑫ 上山山蛇踊り復興補助金
- ⑬ 図書館・歴史資料館建設推進検討委員会を設置
- ⑭ 自治公民館建設費補助金(宮野町区・片白区・山揚地区)
- ⑮ 生活保護ケースワーカー研修費
- 【各事業の支出金額(単位万円)】
- ①一六一 ②七六 ③一九〇
- ④四八二 ⑤九一七 ⑥一〇〇〇
- ⑦一三四 ⑧一四〇〇 ⑨一五二
- ⑩一〇〇 ⑪一一一 ⑫二四
- ⑬三一 ⑭九〇 ⑮一三
- 以上、合計で三千三百万の補正。

学校給食委託関連の採決で議場を退席し、卑怯者の悪名広がる!

その真相は?

私は、給食調理の民間委託を含む、六月補正予算の採決で議員になって初めて、しかも大げさに、議場を退席しました。

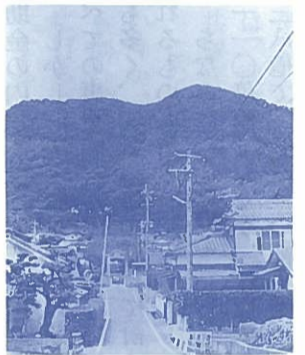
市役所の課長さんや同僚の市議からも、「退席は卑怯だ、堂々と賛否を表すべきだ」と、町や種々の懇親会で言いふらされて、かなり、卑怯者の汚名が浸透している。たしかに、退席による採決権の放棄は、責られて当然だ。

では、どうして私が卑怯者の汚名を受けるに至ったかを述べると、まず、この学校給食調理の民間委託に、私は基本的に賛成である。これからの時代はダムや道路を中心とした、ハードな行政施策から、福祉や環境も加えた、多様な市民サービスの提供が求められるため、民間で可能な所は民間に委ねて、公と民の役割分担が必要と思う。

私が論点としたのは、次の三点

- ① 検収の問題で、業者からの材料の納入チェックを、学校の栄養士と給食担当職員と説明されたが、栄養士は、数校かけもちで、他の職員も本来の仕事があるので実質不可能なことだ。それについては、委託業者の主任にもさせるとの事だ。それなら早くPTAにも変更を正式に知らせるべき。
- ② 委託で浮かせた金が何にまわされるのか? 具体的に決めていないが、図書館等も金が必要なことも示唆され、使途については、今後を、注視すれば良いと思った。

ところで、私が最大の問題としたのは、③ もともと、民間委託にあたっては、大前提として、退職する職員の補充をせず民間に委託するとしてあり、市職員の代りに、



これを機会に再検討を

突然出て来た柏岳開発の整備内容は、

それより低賃金の民間業者にたむわけだから、六月の補正予算では、差益が出るべきなのに民間委託料が、半年分・約一千五百万円で、人件費の減額が、約五百万円で、結局のところ約一千万円を損しているという、逆ざやになって

いる。この原因は、どう考えても、退職者以上に、民間委託を行なって、重複状態の人件費増を作り出してしまったのではないかと思う。

宇宙科学館を科学する

杵島向陽園等の他施設に数人を移動配置するらしいが必要はあるか? また人員配置計画や、この委託料の逆ざやについて、この問題を議会より審議を付託される文教厚生委員会に論議を願った。そして採決の日を迎え、採決の前の委員長報告の最後に人員配置について、これには執行部から明確な説明がなかったとの報告であったから、給食調理の民営化には反対でないが、人件費の逆ざや一千万円は少ない金額でないし、それも教育委員会と総務課が委託導入時期を十分に話していれば、避けられたことだと思ふ。

だから、賛成者が多く成立も、確実な状況で、私が賛成で起立しなくても、「賛成多数」との議長からの言葉で、議員や課長の頭から給食の民間委託の問題点が終結されては困るから、私は、逆ざやの血税一千万円と人事計画の不備にあくまで、納得していかないと言ふ、アピールをこめて、議場を大げさに退席したわけである。

卑怯者の汚名が広がることで、給食問題の将来への反省点の種が広がったとすれば、私の作戦は、成功したかもしれない!

今、六月議会の一般質問の中で吉原議員から、柏岳開発についての質問があった。

それに対して、待ってましたと言わんばかりの反応で、岩谷企画情報課長は、「大楠公園整備も今年度で終り、保養村整備も九年度

には終るので、柏岳開発にも取り組める。また、平成二年度には柏岳整備計画書が作られていて、当時、地元の川良地区からは、自然破壊に注意を払うよう陳情がなされていると言及したうえで、この環境保全林整備事業であれば、それにかなうし、そこまでの道路整備は、防火林道事業で進めたい。」と言ふ主旨の答弁であった。

私は次の二点で大変驚いた。

- ① 大楠公園や保養村は、やっと基盤整備ができ、これからが、観光客を集める為の仕掛け作りや、登り窯のキルンの森とのネットワーク等の充実が図られると思っていたのが、もう終結であった事。

② 以前、開発計画があり、その後は、「入らずの森」として、風景を見て楽しむ主旨の答を、今までは何回もされていたが、急激に大転換したことへの驚き。

結局、後日調査したところ、企画情報課サイドでの集約はまだなない。農林事業の活用が主な意図で、保全林整備は全額を国県が負担し、防火林道も、市は一割負担で、結局ほとんど市の支出がなければ取り組んだ方が得策との判断か?。

公園が北部にも必要とし柏岳開発計画が有り、それを今問い直すことは良い事と思うし、補助金の活用は結構だが、あっちこち中途半端が多すぎないか?

（科学の体験の道具各種）
以上が、私の知っている全で、また、資料の一部を入手したので、載せますので、概要をイメージしてもらい、市民の盛り上げをよろしく頼んどきます。

先月より、保養村内に流れ者の親子が定住している所を確認す。六月二十日だったと思うが、その日は議会一般質問の日、結構多量の雨で、市役所の横を流れる、武雄川も水かさが増し流れも早かった。休憩中に川の所に親水施設として階段があり、良く見るとそこに、何か動く者がある。カモの親子と子数わが急流をさけて避難していた。雨が止めばどこかへ飛んで行くだろうと思っていたが、子はまだ小さく泳ぐのもやっこの状態。すると、白い雨具を着た、男女三人が、餌をやりながら、一わ、また一わと捕らえた。それを保養村につれて行ったのうわき。そこで、七月の晴れた日に、行くと見ると、ずーっと昔から住んでいた様になじんでいた。結構、保養村が気に入ったカモね!

務めてきた、宮野町長崎街道整備事業も最終段階に入るなど、時間的な余裕がなく、いつも増して文章が解りずらくなっているかもしれませんが、お許し願います。

ところで、今回、伝えなければならぬ事で、記述しなかった事が少しあります。それは前回特集した、高架区画の問題ですが、駅の移転案が、JRや鉄建公団や県から、嬉野方面へ近づき、カーブが急になる理由で、賛同が得れない状況。議員の多くは、客観的に難しいと思ひ改善の策への思考の転換が必要と感じて来ている。

しかし、市長は、「武雄市百年の大計」として、駅移転案を堅持して行くと言ふが、信念なら政治生命をかけてやって欲しい。

今後の行動としては、焔博や登り窯の総括とその後の維持活用策などを研究する一方、H九年のリサイクル法への対応も調査する。

流れ者、保養村に定住かも!

先月より、保養村内に流れ者の親子が定住している所を確認す。

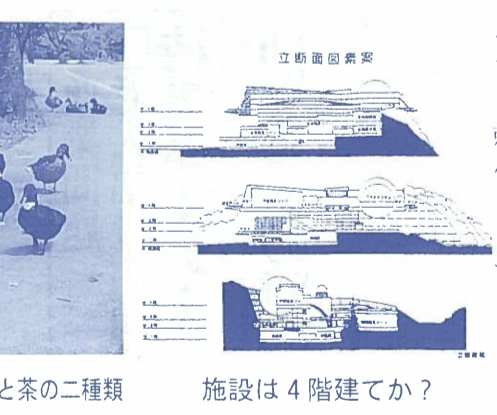


右手が科学館、左手が森林公園



子ガモは、白黒と茶の二種類

- ① 宇宙科学ゾーン (天体関係・望遠鏡・天体ネット)
- ② 佐賀発見ゾーン (有明海・県内の岩石や葉草園)
- ③ 地球発見ゾーン (零下二〇度の室・地底・流水)
- ④ 科学のおもちゃ箱 (ハングライダー・リニア・温泉)
- ⑤ 子供の広場



施設は4階建てか?

今回の通信作りは、PTAや議員野球の練習、焔博のイベントの話し合い、三年前から事務局長を

編集後記と今後のプラン